

もの言う牧師のエッセー 後書き 「大変ありがとうございました」

頌 主。

2011年秋から続けてまいりました「もの言う牧師のエッセー」が、当初の予定通り、7年かけて、ついに366話に達しましたので、これで筆を置かせていただきます。

当エッセーは、7年半前の夏、ある牧師さんから「君は文才あるんだからエッセーでも書いてみたら？」と言われたのがきっかけで始めました。全く自信がなく、寝耳に水であり、当初は一ヶ月に1話程度でもやろうかなと軽い気持ちで考え、筆者が牧会しております「南カリフォルニア聖書教会」がリーチアウトしている100人程度の未信者の方々を中心にメール送信し始めましたが、5話ほどを書き終えた頃、主からはっきりと啓示をいただき、366話からなり、一日1ページずつ1年間にわたって読める“デポジション本”を書くように示され、その知恵も与えることを主は約束してくださり、週一回ペースで書き始めました。

とは言え、筆者は鮎屋で働く“自給伝道者”であり、時間に追われ悪戦苦闘の連続でした。いっぽうで、12年からは助けを得ながら一部エッセーの英訳を開始、送信先が300人を超えたこともあり、メール送信をやめ、13年からはFBで投稿開始、15年には教会のホームページを開設してそちらでも公開するに至り、お陰様でより多くの人たちへ、一気に配信できるようになりました。同時にまた、これまでトラクトにして数千枚ほど鮎屋等で手渡してきました。手渡す相手ごとにトピックを選べるのが良かったです。

さて、当エッセーは、おもにビジネスマン、社会人、新聞が読める層が対象です。一度も聖書を読んだことがない人にも聖書に親しんでいただこうと、誰でも知っている話、最近の話題などから、文化、風俗、歴史、経済、政治、スポーツ、芸能、健康など、様々な観点から、主観より“事実”を平易に述べさせていただき、神を信じない人には福音を、キリスト者には悔い改めを迫る内容となっています。

説教学的には、最初の“導入部分”か、或いは最後の“適用”部分で用いるものが多く、キリスト論的には、イエスさまの「たとえ話」を踏襲し、神学的には、罪論、人間論、救済論、神論、終末論、聖書歴史、さらには教会学や信仰生活などについて、ザッとひとつお記しました。BSやCS、説教や個人伝道等で用いていただければ望外の幸せです。これまでお付き合いいただき本当にありがとうございました。これからも共に学んでいきますよう切に願います。

今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

「どうか、平和の神が、あなたがた全てと共にいてくださいますように。アーメン。」

ローマ人への手紙15章33節

2019-1-30

